

## 新春挨拶

### 新年のごあいさつ



渡辺 具能

自由民主党厚生専任部会長 衆議院議員

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。まず最初に昨年11月9日に行われました総選挙におきまして、3期目の当選を果たすことが出来ました。特に都市部の自民党にとりましては大変厳しい環境の下ではありましたが、皆様方の心からのご支援ご協力によりまして勝利させて頂きました。改めまして、衷心より感謝申し上げます。今回皆様方にお寄せ頂いたご厚情ご期待に応えるべく、がんばって参りたいと存じます。

さて振り返りますと、平成15年は国際的秩序の維持のため米英国が行ったイラク・フセイン政権に対する攻撃に対し国際的役割を担う立場としての我が国は、どう対応するかを国として、そして国民として真剣に考えさせられた一年でありました。非核で専守防衛の下での国際貢献は、いずれにしても限界があるわけではありますが、日米安全保障という日本の外交防衛の最も重要な基本に軸足を置いた上で、米・英国の行動に対する支持を表明し、有事法制やイラク復興支援特別措置法を成立させたことは、日本として、自立した国家としての主体性を発起することが出来たのではない

かと思えます。国際社会の中で国際競争力をつけながら国民の生命と財産を守っていくために国が何をすべきかを、国民レベルでも、もっともっと議論し日本らしい国際貢献をどうやって育ててゆくか、今後とも深めて参りたいと思っています。

一方、国内においては、やはり景気の不振が最大の問題であります。少しずつではありますが経済指標が好転しているとはいえ、特に中小企業の倒産は後を断ちません。日本経済の活況があつてこそ、国家の繁栄や明るい社会の形成があるわけで、景気回復こそが税収をのばし、財政再建も可能にすることであります。そのためにはやはり、公共投資は今まさに必要であり、どうせやらなければいけない社会資本整備を今、前倒しで行うべきであると思います。そして思い切った投資減税等の産業再生を併せてすすめ、日本経済の活性化こそ2004年に達成しなければならないことだと考えております。

いずれに致しましても、日本の再生のため、3期目の負託を重く受け止め、政治の立場より全力を尽くすことをお約束申し上げ、新年のご挨拶と致します。